

■ 一度に多量にさし穂を
処理することができます。

■ 発根を早め、根数を増加
させることにより、良い
苗が数多く得られます。



オキシベロン[®] 液剤

オキシベロン[®]液剤の使用法

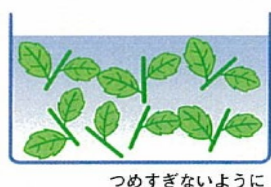
基部浸漬 | りんご(台木)、花き類、観葉植物、樹木類など



● 水上げを行う場合は、水上げを兼ねた長時間浸漬が便利です。

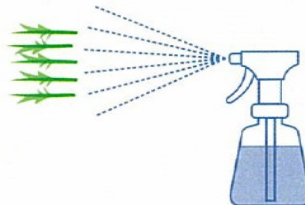
全体浸漬 | きく、茶

さし穂全体を100~200倍液に浸漬してください。
[浸漬時間] きく：5~10秒間 茶：3時間



基部噴霧 | カーネーション

2倍液をさし穂100本当り10mlの割合で、さし穂の基部に噴霧してください。



【オキシベロン[®]液剤の使用事例】

処理
2倍希釈、10秒浸漬

無処理

使用量の目安

樹種	穂長	溶液10ℓ当りの処理本数(目安)
すぎ	25cm	約1,000本
ひのき	25cm	約2,000本
かいづかいぶき	8~15cm	300~500本

※溶液が著しく汚れた場合は、表中の本数以下でも溶液を替えて下さい。

■ 適用作物および使用方法

2023年8月現在の登録内容

作物名	使用目的	希釈倍数 (薬量)	使用時期	使用回数*		使用方法
				本剤	インドール酪酸	
りんご(台木)	さし木の発根促進	4倍(250ml/水1ℓ)	さし木直前	1回	1回	さし穂基部瞬間～15秒浸漬
すぎ、ひのき	さし木の発根促進 および 発生根数の増加	40倍(25ml/水1ℓ)	—			24時間さし穂基部浸漬
茶		100～200倍 (10～5ml/水1ℓ)				3時間さし穂全体浸漬
桑(古条)		40～80倍 (25～12.5ml/水1ℓ)				24時間さし穂基部浸漬
		1.3～4倍 (3,300～330ml/水1ℓ)				3秒さし穂基部浸漬
桑(新梢)		800倍(1.25ml/水1ℓ)				24時間さし穂基部浸漬
		2～4倍 (1,000～330ml/水1ℓ)				3秒さし穂基部浸漬
いぬつげ		40～80倍 (25～12.5ml/水1ℓ)	6月～7月 (夏さし)			3時間さし穂基部浸漬
		原液	10秒さし穂基部浸漬			
かいづかいぶき		20～40倍 (50～25ml/水1ℓ)	3月～5月 (春さし)			6～24時間さし穂基部浸漬
きんぼうじゅ		400倍(2.5ml/水1ℓ)	6月～7月 (夏さし)			24時間さし穂基部浸漬
つつじ類		原液				10秒さし穂基部浸漬
どうだんつつじ		40倍(25ml/水1ℓ)				3時間さし穂基部浸漬
ヒマラヤシダー		2倍(1,000ml/水1ℓ)	3月～5月 (春さし)			20秒さし穂基部浸漬
		40～80倍 (25～12.5ml/水1ℓ)				3時間さし穂基部浸漬
	カーネーション	200～400倍 (5～2.5ml/水1ℓ)				16～24時間さし穂基部浸漬
		2倍(1,000ml/水1ℓ)				5秒さし穂基部浸漬またはさし穂 100本当たり10mlをさし穂基部に散布
きく	500～1,000倍 (2～1ml/水1ℓ)	—	3時間さし穂基部浸漬			
	2倍(1,000ml/水1ℓ)		10秒さし穂基部浸漬			
	100～200倍 (10～5ml/水1ℓ)		5～10秒さし穂全体浸漬			
	チューリップ		20～40倍 (50～25ml/水1ℓ)			第1葉の長さが 9～10cmの時期
樹木類(すぎ、ひのき、いぬつげ、 かいづかいぶき、きんぼうじゅ、 つつじ類、どうだんつつじ、 ヒマラヤシダーを除く)	さし木の発根促進 および 発生根数の増加	40倍(25ml/水1ℓ)	—			6～24時間さし穂基部浸漬
		2倍(1,000ml/水1ℓ)				5～10秒さし穂基部浸漬
花き類・観葉植物(カーネーション、 きくおよびチューリップを除く)		200～400倍 (5～2.5ml/水1ℓ)				12～24時間さし穂基部浸漬

* 印は収穫物の残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

■ 注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきって下さい。
 - 他の農薬との混用はさけて下さい。
 - 系統や品種により効果が認められない場合がありますので注意して下さい。
 - さし木に使用する場合には、次の事項を守って下さい。
 - 浸漬はさし穂基部2～3cmとし、所定時間浸漬して下さい。
 - さし穂は健全な親株からよく充実した枝を選び、葉付のさし穂はさし穂の基部1/3にある葉を除き使用して下さい。
 - さし木後は十分に灌水し、さし床の湿度、温度は発根に大きく影響するので適切な管理をし、特にミストを併用するときは過湿にならないように注意して下さい。
 - チューリップに使用する場合には、次の事項を守って下さい。
 - 第一葉の長さが9～10cmの頃に時期を失しないように、所定量を葉間に滴下して下さい。
 - 高濃度で使用するとう奇型花の発生や生育異常を生じるおそれがあるので、所定濃度を厳守して下さい。
- 使用に当っては希釈倍数、使用方法等を誤らないようにし、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用して下さい。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
 - 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意して下さい。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。使用後は洗眼して下さい。
 - 使用の際は不浸透性手袋などを着用して下さい。
 - 直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管して下さい。

●使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ●ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00～12:00,13:00～17:00
土日祝日および会社休日を除く

F-3296 23.08 ver2